

「らしき」輝く附属小



第14号 令和7年 7月11日(金) 校長 森内 秀学

自然とのふれあいは、命の教育です

教師が見守る中、ビオトープに身を乗り出して見つめる先にいるのは、オタマジャクシにカエルにヤゴ、そして数千匹はいそうなメダカの大群です。頭の上には、住宅地ではまず見かけない、チョウトンボ（下）まで飛んでいます。



汲み上げた地下水をかけ流す形で設置している本校のビオトープは、まさに生き物の宝庫です。



そのビオトープの周りに目をやると、花びらみたいに傘が割れた大きなキノコが（左）。こうした自然が学校の中にあるというのは、本校のよさの一つです。

学習面でも、自然と触れ合う活動が組まれています。

右は、食育の一つとして生活科の時間に行った、給食用のトウモロコシの皮むきの様子。栄養教諭の一瀬先生が指導を行いました。子どもたちは、皮をむくと出てくるぎっしり詰まった実の様子や、不思議なひげの様子に興味津々でした。



自然は、命の塊です。そのみずみずしさに直接触れるこうした取組は、子どもの心を豊かにし、命あるものを大切にしようという心情を育むに違いありませんね。



「らしき」サミット開催

職員や友達、地域の人へのあいさつの様子に不十分さを感じた「やさしさプロジェクト」のメンバー、全学級の代表者を集め、標記の会合を開きました。こうした子ども発信の取組は、自律した子どもの育成の第一歩です。あいさつの向上は、家庭との協力も欠かせません。よろしくお願いいたします。